

糺国際夢想家

自分の存在の作り方

~(影響 x 考え) + 生き方 = 存在~



- ギルボ・オーロラ
- デュフォー・ステファニー

- デュバー・エマニュエル
- ドゥヴォー・ウィルフリード

目次

I.	前書き	3
II.	メンバーのレポート		
	ギルボ・オーロラ	の断片的な考え方	4
	デュバー・エマニュエル	の断片的な考え方	13
	デュフォー・ステファニー	の断片的な考え方	21
	ドゥヴォー・ウィルフリード	の断片的な考え方	28
III.	後書き	32
IV.	感謝	33
V.	奥付	34



～前書き～

たいていタイトルと名前が入るテーマを告げて、以下のページの印象がわかります。4人たちにとって「絆国際夢想家」、「自分の存在の作り方～(影響×考え)+生き方=存在～」は大事な言葉を表すのに、一見したところ他人にとって不可解だそうです。したがって、私たちの考えが分かりやすいのために、その言葉を説明するべきであると考えます。

まず、グループの名前について。たいてい皆に関するも大いに当たるもアイディアを見つけるのは難しいです。そして最小のプロジェクトに私たちの多くがお互いに知りませんでした。総称語はメンバーのグループをまとめることができましたが、グループの個性的を表しませんでした。それから、どのような一緒に結びつける繋がりを書き写すよい名前を見つけますか。

違い提案のあと、選んだ最後名前は「絆国際夢想家」です。どうしてこの名前を決めましたか。色々な理由があります。まず、皆は違う国に住んでいます。たとえば、エマニュエルさんとステファニーさんはベルギーに住んでいて、来栖さんと姫さんは日本に住んでいます。そしてウィルフリードさんと私はフランスに住ます。だから「国際」の言葉が私たちの特徴である。そして、皆さんが日本の関係があると思います。日本は私たちを影響しますから、ある程度は私たちを結びつけます。そして2011年「今年の漢字」は「絆」です。強い言葉だと思いますが、私は将来に進むために、もちろん自分の道を見つけなければなりませんが、他人は大切なことだと思います。だから「絆」の言葉が私たちの特徴である2つの理由です。そのうえ、皆が言語と人生の価値を考え、過去事柄と現在事柄と将来もよく考えますので、「夢想家」をみたいです。それから、「絆国際夢想家」と呼びます。

そして、レポートの名前について。「自分の存在の作り方」というと、自分の存在に連れ行く道を考えます。それぞれは独自の人ですから、自分の道を作ります。

「(影響×考え)+生き方=存在」の文は自分の存在要約する代数式です。どうしてこの式を選びましたか。

「(影響×考え)」に対して、絶えず外影響と自分の考えを混然としていて、お互いに豊かになるので、「かけ」を使いました。そして「生き方」自分の経験と主義に対応します。その上「存在」は和とか結果です。毎日人間は存在のコンセプトを体験して、再び考えます。

人間は連続的進化で、人間の存在は硬直しません。自分の存在はそれぞれの探求の的です。

最後に、どうして各部分の開始に「=」や「+」や「-」や「φ」などの記号を使いましたか。記号を繰り返すの理由のは思想の歩みを表現します。順の記号を当てもなく選びませんでした。自分の考えの進化に従って並べます。

ギルボ・オーロラ

『初将来』

「日本と私」



鋼の鍊金術師 - 荒川弘

ギルボ・オーロラ

— 動機

私は、日本の「オーディオビジュアル」に大きな関心を持っています。「オーディオビジュアル」は、映画とかアニメとか、ビデオクリップなどの集合の結果です。アニメは、私の一番目の連絡でした。ディズニーに象徴される西洋の動画とは大きく違い、日本のアニメの美学は当たりました。でも、なぜか、よく分かりませんが、他のほんのちょっとの物は私の注意を引きました。以前は、魅力の理由を全く自覚しませんでしたが、大人になってからそれぞれの文化に伝わられた価値がその理由になると考えてきました。

子供のころ（今も）日本のアニメを見るうちには私の心をとらえることもありました。子供のころは、フランス語版しか知りませんでした。青春のとき、インターネットのおかげで、オリジナル版のアクセスが容易にできるようになりました。それで、私は日本の言語を発見しました。オーディオビジュアルの分野において、オーディオ媒体は、ビデオ媒体と同じように重要です。全部は正確なことでなければなりません。だから、信頼のこもらなかつた、あるイントネーションは信用できません。そして、適応できない音楽で、場面は感受性を失います。まず初めに、私はその点に誘惑されました。

さらに、技術の進歩と画風の変遷を観察するのは面白いです。絶えずグラフィック色彩と特殊効果の向上で、ビデオ媒体を充実させます。最良のアニメは、デザインや声や価値などのような全部のオーディオビジュアルの特色をまとめなければなりません。私にとって、それを持つ、一番完璧なアニメは、聖闘士星矢（又の名は、セイントセイヤ）です。聖闘士星矢は、日本のオーディオビジュアルの中で、私の興味を示すアニメです。

「オーディオビジュアルの世界」はアニメーションに限られません。映画やテレビ番組やドラマやビデオゲームやコンサートなどが含まれています。一方では、オーディオビジュアルが芸術とみなせても、それは、何よりも、消費道具です。例えば、CMとかTVショッピング番組とか最善事情によって、ニュース番組は消費をそそのかします。

このオーディオビジュアル熱は、私の職業指導に作用しました。私は、将来に、字幕と吹き替えの分野で翻訳者になりたいです。初めは、翻訳の勉強をしたかったです。文学作品に興味がありましたが、翻訳者の選良に加入することだと思います。それから翻訳分野を変わって、オーディオビジュアルの分野を選びました。来年の勉強を考えていますから、とても緊張しています。いつも「どの翻訳の大学がいいかな」と考えています。でも、最近先生と対話した時には、先生は私に「オーロラさんのオーディオビジュアルの考え方や仕事への情熱を聞いた後で、もしかしたら、翻訳もいいけど、オーディオビジュアルのほうもいいのかもしれませんね」と言いました。私にとって、以前から、「翻訳」は私の道の導きの糸でしたから、私は少し驚きました。よく考えれば、オーディオビジュアルが大好きで、経済と政界が全然好きではありません。今も、翻訳者になりたいですが、頂上に達する道は違います。このオーディオビジュアルの道は、私を夢中にさせています。

この目的に達する間まで、私は今、少し前からはやっている日本バンドのファンサブチームのボランティアとして練習をしています。私はだんだんオーディオビジュアル世界の機構を発見しています。胸踊る冒險です！日本語を勉強していますから、時々難しい問題もありますが、本当に好きです。そして活動的な役があって、役に立つことが嬉しいです。自

分の具体的な存在を感じることは、進むための原動力だと思います。各々のメンバーは、このチームに力を貸します。皆の努力で連続を作つて。。。私は、この力学が好きです。換言すれば、首尾よく仕事を成し遂げるために皆の能力を必要とします。各々のメンバーは、鎖の環みたいです。「スローガン」は協力です。。。この場合に、「力学」は「協力」と同じ意味だと思います。

オーディオビジュアルは、社会の風習の変化を引き起こしたと思います。でも、社会の変化がオーディオビジュアルの内容を変えますか？言い換えれば、考え方の変遷はオーディオビジュアルの内容に由来しますか？考え方の変遷にはオーディオ媒体がありますか？これらの質問に対して、私は確答がないと思います。私にとって、それら自身は、補給テーマの二つです。その言葉どおり子供のとき、私たちの意見と考え方は、例えばオーディオビジュアルに伝わられた価値反映でしかないと思います。だから、私たちは、オーディオビジュアルに影響されます。しかし大人になると、自分の意見を作れるようになります。

私の場合には、ある程度は影響しています。つまり、私は見た映画とかについて考えますが、当然、この映画の価値に従わないということです。そして、私は、例えば見たい映画を選別しますから、当然その見たくない映画から伝わる価値を否決すると思います。オーディオビジュアルから伝わる価値は権威がありませんが、その価値について意見はいくつもあり、それらの意見のうちの一つにとされていると思います。つまり、自分の考え方を作るために、一つの意見として、映画の意見を聞きます。例えば「私はあなたと同じ意見です」とか、「私の意見は相反します」とか。

結論として、私が日本オーディオビジュアルの影響を受けたのは、もう9年も前のことです。でも、私だけではなく、オーディオビジュアルは、皆に関係あることだと思います。皆、子供のころから浸り切つていて、ありふれたもので気づきにくいけれど、皆が影響を受けているものです。だから、その意味を考え直す必要があると思いました。これが、オーディオビジュアルのテーマを選んだ全部の理由です。

× 対話レポート

φ 対話相手

私が対話に選んだ一番大切な相手は、優子という友人です。日本人で、何年間かフランスで住んでいました。私は「優子姉さんは前からの知り合いです」とか「優子姉さんがどういう人間だかよくわかっています」とか、言うことができませんが、対話相手を選ぶ時、すぐに、優子姉さんを考えました。どうして選びましたか。少し難しくてきっと恥ずかしい説明です。変な言い方ですが、彼女のことをよく知っているとは言えないけれど、私は優子姉さんを信頼しているし、テーマでも素直に話せます。優子姉さんは思慮深い性格があるので、（ありふれたテーマから存在のテーマかけて）全部の主題に入れます。話す時、私の言うことに耳を傾けていることに気がつきます。だから、私にとって一番大切な相手として優

子姉さんの選択は当たり前のことでした。

◆対話1：「自分の具体的な存在を感じることは、進むための原動力」

私の作文を深めるために、優子が気づいた点と質問から出発しました。まず「どうして自分の具体的な存在を感じるか。どうしてこれを原動力なのか」と聞きました。実は、私の人生のプランは、野望が大きいですが、実現できれば素敵じゃないですか。野望なしで何が残りますか？友達は現実の家族の90%ぐらいを表します。しかし友達がいても、それぞれの友は自分の人生があるので、私達は、最後に一人きりで生きています。だから、前に進むために、私は、他人に無関係の、自分の具体的な存在を感じる目的を見付けなければならない。

優子姉さんにとって、仕事で他の人と一つになります。団結の気持ちを感じなければなりません。経験によってあるチームで考え方と働き方を疑っていて、自分の存在を感じませんが、他のチームで自分の具体的な存在を感じることができます。しかし進むためにチームの変化が必要です。したがって、たえず自分の内に発見。そして道の導きの糸を捜さなければなりません。

自分の具体的な存在を感じると、アイデアと性格が進化できます。もちろん自分の進化は相手のチームいかんにかかっています。

どうしてチームの調子がよいですか？どうして大切なことですか？

「翻訳」と「チーム」の場合は、私を解き明かす事ができました。したがって、時々新しい道を見つけます。

次に「鎖の環」の表現を検討しました。優子姉さんはこの表現が人生のテーマに当てはまるができると言いました。もし環になるのを選べた、何も後悔しなくて、自分の存在を感じます。2つの村があります：一方では共同作業がある、もう一方では自分の中があります。チームのように共同作業がありますが、それぞれが自分の性格があります。

しかし、2つの仮説があります。1つの目の場合にはチームの中で表現しやすいなら、各々の性格はチームの構成要素をなして、チームの調子がよいです。しかし2つの目の場合には妥協の余地はなければ、チームに有利になっている性格を抑えます。

この2つ目の場合には自分の具体的な存在を感じることができますか？私は何をできますか？私は変えますか？どこまでに？「嫌い」とかの気持ちのような障害にもかかわらず、自分の存在を感じるために、どうすればいいですか。

この対話に対して、優子姉さんのこともっと知られることができました。そして、私は「自分の具体的な存在」の意味を自覚しました。細かなことが人生を変えます。

◆対話2：「オーディオビジュアルの影響」

年齢によるオーディオビジュアルの影響について、よく話しました。全く影響されま
すか自分の意見を作れますか。ここに対話の抜粋があります。

⇨**優子**：「自分の意見を作れる」というのは？

⇨**私**：子供のころ、例えばヒーローのアニメを見ます。たいてい「私もヒーローになり
たい」と言って、アニメの役を描き出します。例えば、「X君は悪人だけど、僕はヒーロー
だ。そしてYちゃんは捕虜になった姫だよ」。ヒーローをまねしたくて、勇気とか素直のよ
うなヒーローの価値を描き出します。実用主義の説明のし方で、ある箱には様々な仕切りが
入っています。各々の仕切りは価値を表します。だから箱を受け取る子供は、ついでに箱の
内容を受け取ります。そうすると価値を受け取ります。それからオーディオビジュアルが子
供の考え方を影響します。

⇨**優子**：そうですね。私は子供のころ、「ドラえもん」のアニメを見ました。もちろん
「どこでもドア」の主義は創意ですが、子供はそれを信じやすい。他の例、今は見ること
ができますが、子供の時、「ナウシカ」の映画に大きなショックを与えられました。だから、
オーディオビジュアルの影響はあると思います。うん、そう思います。

⇨**私**：「前は怖くて見られかかったのに、今は見られる」という言葉から、私は、優子姉
さんが映画の意見ときちんと距離を保っていると思います。全部の映画の影響を受けていま
せん。それゆえ、オーディオビジュアルの影響の制約があります。
しかし、私は、昔スピルバーグの映画「E.T.」を見て心理的外傷を受けましたが、今、大
人になっても、この映画をもう見たくないです。ということは「オーディオビジュアルは子
供の考え方と感情を影響しますけど、大人の感情しか影響しません」がオーディオビジュアル
の影響のプロレスを要約するのでしょうか。大人になって、「オーディオビジュアル」は
私たちの考えを操作しません。私は手本より、よそ者の意見として、オーディオビジュアル
の価値をみなすと思います。

⇨**優子**：一つの映画は色々な意見があるのが面白いです。でも、情報のとりすぎの場合
はどうすればいいでしょうか？情報は、どれほど正確なのか、実際にはわからない。そのう
え色々な意見を表せる映画に比べ、ニュース番組はたいてい一つきりの意見しか表さない
ので、そんな意見に、どの重要性を認めればいいのか。

これまでの話は、実は一つにまとめられるかもしれませんね。「自分の意見」と「チ
ームの自己の中で具体的な存在を感じる」の関係について。「オーディオビジュアル」は自
分の考えを作る時に影響します。チームは、自分を表現できる場所ですから、大切なことだ
と思います。チームの中でも、何かと一緒に作るプロセスにおいて、自分の考えが作られ
ていくと思います。つまり、オーロラさんと話していく気づいたのは、私達の周りにあるたく
さんの「オーディオビジュアル」の影響を受けながら、まず自分で自分の考えを作る。そし
て、2番目に、チームとか、他の人の関係の中で、自分を表現できる場所を探すというこ
とだ。表現しながら、また自分の考えを作る。そして、その結果、「自分の具体的な存在」

を感じられるのではないか、と思います。

結論として、優子姉さんは、私にオーディオビジュアルの考え方を、他の視点から考えたらどうなるだろうと質問しました。一人のプロセスの関係とオーディオビジュアルのテーマを広げられるでしょうか？自分の具体的な存在を感じるために人との付き合い方と自分の生き方の役は何ですか。他人と「私」は違うことで、自分の生き方のは大切なことです。しかし「自家」は進化するのに「他人」を必要として、「他人の同一性」を通して位置にあります。

原則として、皆は高く買っている人の意見に重要性を認める。でもあの人と自分の意見は反対の場合には、最終的に「自分」を変えますか？それぞれの性格としだいで、私は確答がありません。

◆対話グループ

私の意見を「絆国際夢想家」のメンバーの意見と突き合わせるのは私の考え方を他の視点から検討して、一人きりで全然頭に浮かばない考えに入ることができました。

◆対話1：自己と「タイトルレポート」 - 「他人」の関係

⇨姫さん：オーロラさんのテーマである「初将来」とその意味とはどのような関係がありますか？

⇨私：最小にテーマは「オーディオビジュアル」です。私の職業の将来を影響しました。だんだんと対話をうっかり逸らしましたて、存在問題を話し出しました。
私にとって、将来は人生と同じに似ていると思います。つまり最初のアイデアがあっても、自分の進むべき道を変えて、付け加わって、後戻りするのとですから。
人生（将来）のような対話はどこまで着くのを分からなくて、未知へ進みます。

⇨姫さん：自我は進化するのに他人を必要とする？「他人の同一性」を通して位置にある、という意味をもう少し記述するとオーロラさんが伝えたいオーディオビジュアルの新たな視点がさらにわかりやすいのではないですか？

⇨私：そう思います。哲学的な考え方で、日本語でちゃんと説明するできませんが、それを説明するようにします。
まず、「オーディオビジュアル」の意見は他人の意見と同じだと思います。2つのは権威がないでから。

そして、人間は真似で習います。例えば子供はヒーローとか、パパとママの役を真似をします。他人は「私」と似ているけど、それぞれは異色です。だから、私たちの味と考え方を対比すると、何でも他人のことを習います。他人は違い意見を表現しますから、「自我」（私の意見と考え方）を考え直します。それから自我は進化するのに他人を必要とします。「他人の同一性」と「自我」の違いにも、他人（友だちとか）の応援のおかげで、進化するのはもっと簡単だと思います。

タイトルは重要な要素ですから、私ははっきり答えたと思います。つまり、タイトルが文体を告げます。だから、テーマとタイトルの関係がなれば、困ったことだと思います。

◆対話2：自分と「オーディオビジュアル」-「翻訳」の関係

⇨来栖さん：私はまだオーディオビジュアルというものが具体的にどんなものを指すのかが想像できません。オーディオビジュアルはオーディオ+ビデオということで、具体的にはアニメ、映画、CM等のことを指すのでしょうか？そして、オーロラさんはオーディオビジュアルの「内容（脚本、絵、等々）」と「技術（機械、技術、等々）」のどちらを熱中しているのですか？

⇨私：もちろんオーディオビジュアルはオーディオ+ビデオということですけど、アニメ、映画、CMはこの集合の結果です。そして「オーディオ」と「ビデオ」は内容と技術のような色々な構成要素を集合するレッテルだと思います。
内容と技術のどちらを熱中しているのを分かりません。それぞれの要素はお互いに豊かになります。私にとって、組み合わせるちょうどある曲とある絵があるので、ある感情を感じることができます。それぞれの要素は同じ重要であるだと思います。

⇨来栖さん：オーロラさんが所属している「日本バンドのファンサブチームのボランティア」とは、具体的にどんなことをしていますか？あと、日本バンドの名前も教えていただけますか？（すごく気になるので）

⇨私：私はチェックします。つまり翻訳のまとまりとか、文法上と綴りの誤りを確かめます。色々レベルがあります。例えば「最初チエッカー」や「最後チエッカー」などです。バンドはAKB48です。＾＾ ファンサブサイト「<http://akbgirls48.com/>」は主としてAKB48に関していますが、SKE48とかNMB48とかのニュースもあります。具体的な例を説明していただきます。「最初チエッカー」として、土曜日までに「DOCUMENTARY of akb48, to be continued。。。」をチェックします。このプロジェクトの長さはほぼ2時間ぐらいです。オーディオ媒体しかないし、1800文くらいがあるので、時々大変でも、本当に好きです。このプロジェクト「DOCUMENTARY of akb48, to be continued。。。」の後、私はAKB48の「ゼロサム太陽」の歌を翻訳する予定です。「翻訳者」として楽しみにしています。

⇨ 来栖さん：レポートを読んでいて、オーロラさんの主な keyword として「翻訳」、「オーディオビジュアル」、「鎖の環」、「チーム」等々が思い浮かんだんですか、「オーディオビジュアル」と「鎖の環」と「チーム」という keyword にははつきりとした「つながり」（オーロラさんの人生をつないでいく赤い糸のようなものです）が見えたのですが、「翻訳」という keyword だけ他の keyword とつながりがないように見えます。「翻訳」という keyword がギルボさんの過去、現在、未来にどのように影響をあたえているのか or あたえる予定なのか、それについてくわしく教えてくれませんか？

⇨ 私：私にとって、「翻訳」は就職指導を明らかにできました、そうすれば「チーム」とか「鎖の環」のような要素を気がつきました。「翻訳」は私の人生をつなぐ 1 つの要素だと思います。

ファンサブを開発して、嬉しかったです。「オーディオビジュアル」と「翻訳」の関係について詳しい説明をして、よかったです。

十 結論

土台の考えは「日本と私」です。私にとって、この関係を表すテーマは「オーディオビジュアル」です。

まず、私によって「オーディオビジュアル」のコンセプトを記述して、過去と現在と未来の人生の影響も説明します。実は聖闘士星矢のアニメから日本アニメーションの世界を発見したかったし、今大学で日本語を勉強しているし、私の将来職業指導に作用します。その後、一般大衆がそのコンセプトを影響を受けることを説明しました。オーディオビジュアルの力に注意しません。伝えた価値は自分の考えに合わせるのを目安にするのに、人の多くが気晴らししかと思いません。

次に、相手とグループのメンバーとの対話のおかげで、一方では深くなつて、他法では広くなりました。たとえば、オーディオビジュアルの分野でボランティアをすることは自分の具体的な存在を感じることができましたが、実はオーディオビジュアル範囲に限られません。人間関係とか、たいてい人生などに応用することができます。

＝終わりに

この「考えるための日本語」は参加する一番目の国際の関係プロジェクトです。根気のいる仕事でした。七週間にわたってこのプロジェクトに注意を集中しました。頭の中で七週は長い時間を表しますが、実は自分の考えを成功させるために短い時間でした。

皆は違う文化があるので、自分の見方を異にしているのは当然のことです。したがって私の考えをやり遂げることができました。そして自分の意見を無理してはつきり言い表せます。確かにある意見を説明した時、よく私は私にとって明らかだ意見が問題を出すことを悟りました。進化と深化の自分の考えのような個人的な目的があると思います。

ただし、私の日本語の能力に乏しいですから、はつきり全体の意見を表現するのは困難な企てでした。しかし、この障害にもかかわらず、メンターと皆さんとの力動説と関与のおかげで、私はよい環境に表現するようにできました。私は重要な目的は伝えると思います。

大変だったのに、教育的な経験でした。

『私は日本文学を感じてもの』

「日本と私」



デュバー・エマニュエル

一 動機

私はリール大学で勉強しても、同級生様より古いだと明確しております。1963年に生まれたので、いろんな意味で私は日本の異なった見方があるかもしれません。しかし、私は最も大きく日本の経験があると言うわけではありません。年数の問題だけではありません、そのを皆は知っています。つまり、私は「アニメ」のこと、「漫画」のことなどを何もほとんど知りませんが、記憶に過去の姿が残りました。さらに、私の日本の発見ということが何回も時期にされました。

とりあえず、1960年代に、ヨロッパで日本から来たもの何がありましたか？私は色々なことを思い出しますが、最初に日本に関する本を見たことがあります、古い写真と戦争についてテレビ番組もありました。父は写真家の仕事があったので、私は欧米写真社と日写真社の競争にあったことは忘れてはなりません。はじめて日本で作った車を発見した時、皆がその事件についてしゃべってしまいました。人々の意見には、日本は模造品の国だけ表現でした。実は、そんな見方ある日本人もいると言えますが、違った意味というのです。それでも、その時頃例えば、祖父は「日本人がイミテーションのみしていませんが、いつも改善してしまいます」よく言いました。随分珍しい意見があったのです。普通は、日本について紋切り型だけ聞こえてありました。国として日本は新しく、奇妙な国のままありました。そのうえ、日本はどちらにあるのをあまり分かりませんでした。「遠いで、どこかにアジアの列島ばかりです」とは聞こえました。

年を取って、私は日本の表現がなかなか変わっていたことに気づきました。例えば、フランスやベルギーでその1970・80年代に、日本の文学は、もし言わんばかり三島由紀夫によって本に限ったと言わなければ、それ以来読みの選択がとてもたくさん広がりました。したがって、私は会社として日本から社会として日本までのことをやっと見えるようになったと思います。多分文学を通しては、ヨロッパ人はもっとぴったり日本人のことの知覚と素養ができるようになりました。でも、本の中に語ってフィクションというに、日本や日本人の特性について何を教えられますか？このを自問しています。欧文学を、私たちはままに分かっています。それに、日本の文学に多かれ少なかれ大事な影響をしてあります。翻訳はあまり日本語の特色を現しません。ほかの問題もありますが、最近の大量の本を読むために、どんな方法はいいでしょうかと考えています。日本文学は読む読めばほど曖昧になったと思います。しかし、ほとんどフランス語での曖昧さは浮かびません。

この文章には不明瞭な説明がたくさんあるとよく分かっています。自分の意見を表現してみたけれども、そんなに困難の練習ですから、も一度いろいろなことを書かなければなりません。実は最近だけ日本語で少々書けるようになりました。こういうわけで、助言と質問をくれることを期待しています。

・日本と私の説明・

私ははじめて日本文学の本を読んでみましたとき、少々驚いたのです。私の記憶がよければ、夏目漱石によって書いた「門」とか「三四郎」でした。あまり分からなかったので、何を思っているのを知りませんでした。どうしては、そんなに教えづらいのである。でも、も一度その本などを読んでしまった、自分の読みの方法を尽くさなければならないと思い込んでいました。いわゆる、「自分の方法」というのは、まずそのを作ろうとしました。そのために、何がいいか、考え始めました。誰か作家の想像や目標は、いつも何か適切なことと関係があります。そして、はじめに歴史と過去のものは、とても便利はずでしょうか。

たださて、私は書き続ける前に、二つものを述べるつもりです。もちろん読者という私は私的な視点があってでも、とにかく確かに絶対的な視点はできません。文学は数学ではないのです。今私は話してものは、私と創造のことの比較です。私というのは、私ある日本の経験と知識です。20年、10年前、私は日本に関して知ったことが、非常に限っていました。つまり、案の定たくさんの偏見や紋切り型がありました。私にとって、日本は葉書のような皆に見える模様が表現でした。同時に、しかし、その時から今まで、私は紋切り型が嘘そうだのをよく考えました。日本文学を読んでいた時、そのイメージを探しながら、そのあるイメージを追い出す予定でした。作家に「ほかのものを見たい」、「本当のものを教えてください」といつも私は頼んでいたのです。でも、例えば川端康成とか三島由紀夫の話しあは欧読者の自分の見方とふしぎな類縁があるそうです。彼らは外国人の期待のために責任を感じている振舞うようです。

もちろん、これを上書いたことはカリカチュアですが、遠藤周作や大江健三郎とかによって本ほかの視点を見せています。日本人の作家を信頼しても、それは私を安心させると言えます！問題は、日本文学を読んでいると、欧文学を読んでいると、同じ動機も知的なものの考え方ではありません。要するに、フランス文学を読んでいる時、いつもフランスのことを探していません。絶対にフランスのことを求めていると私は思いません。日本の小説を読んでいると、日本と関して何かを見たいと思ってならない、と話さなければなりません。

さて、多分そんなに悪くありません。よく考えると、私はベルギー人だので、ベルギー人の作家によって本を読んで、時々このような思索もしてこともあります。さらに幸いにもそのは変えます。今日本の歴史と思想のものをもっともいい知っていますから、新しい視点ができるようになりました。ただ、その知識がぜひ必要だけど、どうしても足りません。なにをいいでしようかまだ分かりませんが、単純に世界文学のように日本文学を読めなければならぬと思います。日本文学には、人々の人生や存在を話してこともあります。結局、どこでもの文学のようになります。

私の期待と日本の身元を比較したり、その結果を見たりします。

・大切な意見・

1 欧読者によって、日本文学を日本語で読むのは、とてもむずかしいです。ですから、作家の意思は凄惨のものを隠してことが残っています。これは問題ではないと思いますが、挑戦に応じる機会です。

2 私の感じたものについて、日本の小説の中に描いた事件をよく分かるために、説明が欲だと思います。異文化と関係がありますから。例えば、歴史の知識は必要だと考えます。もちろん、欧文学を読むために、知識が大変です。でも、諸島として日本国こそ特別な模様の代表です。諸島は特性の例で、ほかのこともあります。

3 日本文学について話すのは、明治時代からの文学を説明するのです。日本文学の歴史は、明治維新に止めながら、も一度始めましたと多分私は言えます。少々誇張してもいいだか、ヨロッパで革命は文学の進行の結果で、日本で文学は革命として明治維新の結果だと言えましょうか？

4 なぜ小説に登場される「名前のない人物」がそんな多くですか、私はいつも自問してみます。「Aさん、Bさん」などによく会っているのか、まだあまり分かりませんが、重要なことだと考えます。異なった本で、異なった答えがあると思うけれども、面白い視点を見るも思います。

5 日本作品において欧の影響は、分けることができますか。これは意味があるのですか。時々、何か小説を読んでいるところ、そうだと考えていることにします。

× 対話レポート

Q 相手の紹介

私の選んだ相手については、少し話したいです。私は10年ぐらい前にイーリズさんと知り合いました。同じオーケストラで一緒に仕事をする機会がありましたからです。彼女も音楽家のことはもちろん大切なですが、さらに、イーリズさんの母国語はオランダ語で、大学でフランス語やスペイン語などと外国の文学のマースタを卒業しました。その結果は、早く互いの興味がありました。今私と彼女と一緒に音楽をよくしたり、音楽や文学のことについてを対話したりします。異文化のことは私たちの間にあります、ベルギーで二つの国語があるので、つまり二つの共同体のようは表せるのです。こうゆわけで、この二つのコミュニティはたくさんの共通点があるけれども、半分の同じと違った文化があると言えます。もちろんとても実りの多い経験です。ただ問題は、そんなに多くの仕事で私たちにあまり会うことができません！！

Q レポート

⇒イーリズさん：あなたにとって、外国語として日本語と日本の文学と、どんな関係だと思いますか。

⇒私：皆と同じ、私にとって子供のときすべてが始まりました。実は、その頃私は外国の言語に魅力されましたから、確かにフランス語のほかの言語ができるようになりました。英語やオランダ語などの私の知覚はとても奇妙なことでした。違った言葉を話して人々は違った思想がありますか、と自分質問されていました。例えば、子供として私はヨロッパ人だけに会ったので、その人々と私よく似ているのです。同じ言語を使わなければども、それでも共通点をたくさん持っています。そのあと、年をとればとるほど興味深くなつたので、色々な文学を読み始めました。いつもフランス語とかフランス語に翻訳した本でしたが、多分翻訳のことは問題そだような気がしていました。もちろん、西洋文学だけを読んでいましたからです。意見は、フランス語でもとかオランダ語でもとかドイツ語でもなど、同じ意見だと私は思い込んでしまいました。でも、中学、高校の年間にわたって、よく違った本を読んで、そんなに単純ではないのを知れるようになりました。

そういうわけで、「なぜ元の言語で本を読めるようになるのは、絶対に大変なことでしょうか」と考えることになりました。その時は、わたしは文学の興味がだけではないが、外国の文化の興味もありました。あの二つのことの間に明らかな関係がありますから、翻訳の仕事は本当の専門だと思いました。そして、みなはそのをよく知っていますね。いま、それぞれの作品を元の言語で読めるのはとても無理なことですが、何もできないわけではない。本当の知覚が見えるようになるのは難しいそうだ、なかなか結果をしない、努めないわけではない。

私は8歳になったとき、はじめて漢字を見たことがあるのでした。なぜか分からぬが、父から日本に関する買った本、内にありました。その古い本の中で、絵とイメージとテキストは書いておいてありましたから、私は突然奇妙なことを発見できました。日本のイメージがみえることは、新しくなかったですが、普通はぼんやりとした印象を受けてしました。その本をじっくり見たり、よく引いてしたりしていました。ところで、その漢字は、「道」として漢字でした。私にとって、重要な発見だったと思います。その前はアルファベットだけ知っていましたから。そのシステムとか書き方は、同時にとても論理的だ、秘密ということで、美しくのような代表だったと考えていました。大人になる前の前は、私はより多くのことを知っていて、習っていましたが、あの最初はなおさら、とても面白かったのです。

その後で、多分意外な結果でしょうが、高校を別にして、私は外国の言語を勉強していませんでした。でも、音楽の仕事をしたけれども、文学と言語を放棄しませんでした。たくさんの外国人にあって、色々な外国語が見えました。それと絆のようなことをいつも持っていました。さて、ある日はコンサートをするために、日本へ行ったことがありますので、日本語を勉強しようと思っていました。

⇨ イーリズさん：日本文学を日本語で読むのは、そんなに大変ですか？

⇨ 私：文学の中に入り込んでも、旅行のようなことに似ているものでした。ただ、一、二冊の読んでみた本のことを話していませんが、幾度も誰かの人々の小説家の作品を読み切ると言います。ほかの世界に入るには、そんなに簡単ではないと説明しています。すべての作家の仕事を知ることにするのは、壮大な計画でしょう。ほとんど無理な願いをしてしまいます。それに、無駄な努力だと思います。それにたいして、元の言語で本を読めるようになることのおかげで、研究の進歩は進まれます。その人の作家とあの他人の作家の間に、そんなに大変な違った文体ということがありますから、その独自性はいつもよく現わされなければならないでしょう。こういうわけで、外国語として選んだ日本語のおかげで、より良い理解や知識を可能にされています。

⇨ イーリズさん：翻訳した本がたくさんありますが、あまり良くないとあなたは思っていますか？

⇨ 私：もちろん良い翻訳はありますね。でも本の中で私の自分の感情を探している予定です。そういうわけで、日本語が読めるようになるつもりでしょう。作家の感情や意欲の中心に迫ろうと思っていますから。さて、悪く翻訳した日本の本もあります。古い翻訳があり、間接の英語からフランス語を翻訳した本もあります。とにかくヨロッパ人にとって、日本文化にはたくさんの特徴があります。この特徴は部分的翻訳に捨てられてしまいます。この翻訳の問題については、いつもこの対話の中出席しています。中心のことだと言わなければなりませんね。いろんな意味で、そのような困難は動機を表しています。

⇨ イーリズさん：あなたは日本文学を讀んでいると、何を感じていますか。

⇨ 私：もちろん私が感じていることについては、全部本を書かなければならぬと思います。でも、曖昧なということは重要な論点だと言えます。実は、日本の文化と文学を勉強すればするほど少し具体的になります。でも、「日本文学」ということは一つだけのものではないと言わなければなりません。何でものほかの「国や世界の地域の文学」と同じ、日本文学は生活と人間存在をあらゆる角度から検討しています。明らかな一般論です。それでもこう言ったことを分かるために、努力が必要でした。なぜかよく分りませんが、フランスのやイギリスのやスペインの文学などを讀んでいると、小説や物語の元の国は強迫観念のようなことではありません。いつも「ああ！これはスペインやアメリカなどの文化の特性的です！」と私は思っていません。日本文学にたいして、まだ同じではありません。さて、「強迫観念」という言葉は少し法外な表現でしょうが、これは重要な意見を現すかもしれません。多分、日本文学の経験は、新しすぎるのですか。多分、わたしは日本の勉強をしているのことは、強い影響を及ぼしてありますか。毎回この質問に私は立ち向かわれなければなりません。実は質問ですが、問題ではありません。わたしの日本文学の視点を考えれば考えるほど複雑になります。ほかと同じ、日本文学は質問しています。作家と読者に質問すると言えるでしょう。翻訳者は自分のような新しい問題ということを入れてはいけません。時々、そうだと思

うかもしれません。また、作家の意思などを隠してもいけないと考えなければなりません。日本語は難しい言語なので、そのフランス語まで通過のようなことは微妙な仕事だと思います。だから、自分の新しい翻訳をしないながら、私は日本語で色々な本を読めるようになりたいです。

⇨イーリズさん：他の文学に比べて、日本の小説の中では、とても違ったことですか？

⇨私：本当を言ったら、日本の小説や物語の内容は、ほかのように世界の解説だろうと言えます。やっと「日本の作家」と「日本文学」は、同じことについての討論ではありません。最終的に、「日本文学」の用語の中では、「文学」は一番大切な用語だと考えるのです。言い換れば、「日本文学」は日本語で書いた文学とか日本人から書かれた文学を指しているのだと言えます。

もちろん、私は色々なテーマということがあるような気がします。例えば、身分とか、身元とかをもとめていることは、西洋文学により、日本人の作家の作品の中で出席そうだと思いません。もう言えましたが、よく読んだ本の中には、「A」や「B」など、人々は「名前」があることに気づいています。一つの例です。例えば、たくさんの話しには、登場人物が自分として人間を探していることの話しさは書いてあると思うかもしれません。今、どこでも世界に、人々は自己のことについて質問しています。でも、そのようなテーマは、文学論として姿そぞだと奇妙な考えます。多分私こそその感想ではないかもしれません。他の人の説明が聞こえる機会があると、そのような注意したことを聞くそうです。しかし、日本人の読者に説明を聞いてもらったら、よりも面白くなるべきだと私も考えます。

十 結論

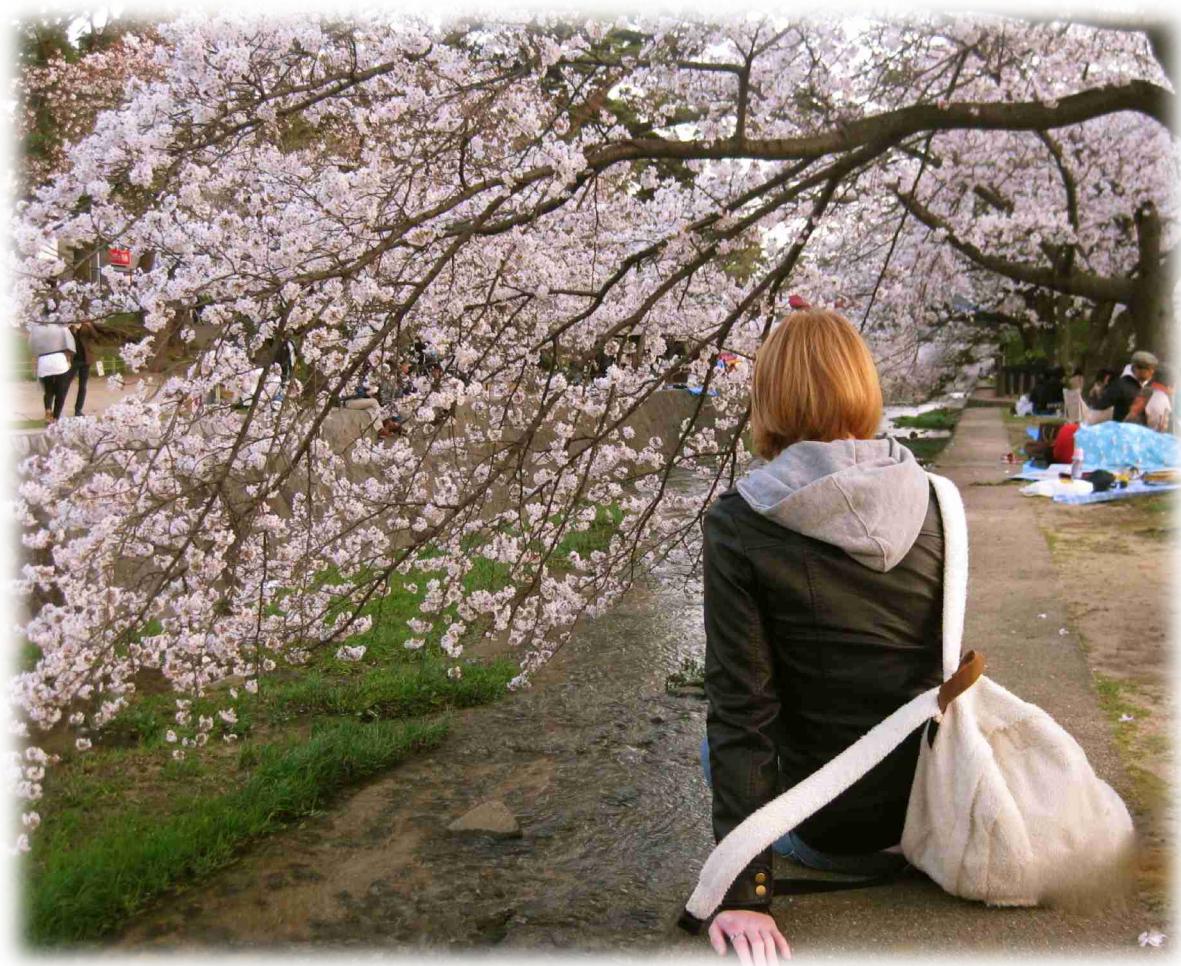
結論できるのは、簡単ではないと言えます。私の日本文学の発見は、最近の発見ですから、私は長い道が見えます。それでも、今そのテキストを終わるために、色々な意見を述べます。最初、日本文学には、大切な問題は日本語なので、西洋の読者にとって翻訳の問題があるのです。あの翻訳の任務の実行も最近始まったので、この問題はあまり分かりづらいではありません。そして、日本語は難しい言語で、日本文化には多くの特徴があるので、巧みな仕事べきです。その結果、私の知覚にはそんなにたくさん不明瞭なことがあるそうです。日本の文化の部分は、日本語の中に持たれています。でも、その幻のようなことで、滅多に具体的ものとういことではあると考えます。さて、日本語ははじめに魅力で、とても新しくすばらしい経験、他の経験に比類のないものです。自然に、文学もこの魅力を受けています。だから、普通の文学説明に比べて、読者は巧者べきだと思います。そして、読書をじっくりするのに、たくさんの知識が要ります。こういうわけで、結論をしようとするため

に、曖昧なことと自分の探していることは、わたしの初めて知覚や感想だと思うかもしれません。

＝終わりに

私はこのプロジェクトとして「考える日本語ための」に参加することにしましたところで、好奇心があって、も少し恐れてしまいました。今まであんなに多くの文書を日本語で書くのはまだ経験ありませんでしたからです。私は48歳の学生なので、日本と私の関係については、古く新しい関係だと言えます。過去には、日本人に会えた、日本へ旅行をする機会がありました。そのあとで、年にわたって、魅力は次第にもう大きくなりました。このプロジェクトは、難しくても、また難しいから、とても面白い経験だったと言わなければなりません。時々悪くなつた都合もあって、色々な困難を立ち向かわなければならなかつたので、私は胸がときどきしたことがあります。最終的に、私の参加の結果を問わず、全然この冒険ということは忘れられます。会議に行くことができなかつたけれども、私は皆さんに感謝しようとします。

『乙女心の咲き方』 「日本と私」



デュフォー・ステファニー

一動機

人は何のために生きるのでしょうか。なぜ地球に生まれてきたのでしょうか。そんな疑問はよく浮かべます。青年期にそれを考えてばかり、答えを見つからぬままでへこんでいました。

子供の時から日本のアニメや漫画などを見ていました。その話の中でいつも元気で勇敢で夢を持っているキャラクターが私のお好みでした。私の人生もそんな話のようにおもしろくなつたらいいのにとずっと願っていました。

それで夢を見つける事ができました。その夢は二つ段階があります。一つは16歳の時の夢で、二つのは今の私の夢です。

あるアニメは私の人生を変わりました。カードキャプターさくらでした。馬鹿のように「さくらになりたい」とばかり言っていたのですが、高校生になっても、その夢を持つていました。もう子供のように「さくら」の同じ髪型をする事の意味を違って、他の次元の夢になりました。心理学的に「さくら」になりたいと思っていました。でも、「さくら」をよくわかるように日本に行かなければならぬ事だと思いましたから Exchange Program に参加しました。

大阪に十ヶ月間留学しました。日本人の高校生のように生きていました。毎日本ストファミリーに「行ってきます」と言って、制服を着て、授業を受けて、部活に行って、打ち上げをして、「ただいま」と言って、そんな日常生活でした。たまに問題がありましたが、夢のような日々をおくりました。満足でしたがベルギーに帰ってからなんとなく私の心は空っぽを感じました。私の夢が叶えたから私にはやることがもうなにもないと思っていました。子供の時から日本へ向かっていたから日本へ行った後の事は全然思っていませんでした。なにすればいいのかばかり考えて、1年間すごく迷っていました。大学に入学しましたけど勉強が好きじゃなくて、日本へ戻ろうとしましたけど3月におこった事で家族は行かせなかった、仕事をしてみたけど、それもまででした。

改めて十ヶ月間の留学生活を考えて、いろいろなことを気がつきました。

まずは日本語の事です。私の心は日本語を聞く時と話す時に活発に感じます。留学する前に日本語はきれいな言葉だと思っていただけです。留学した後日本語はもっともっと好きになって、必要な事になりました。でもなぜ日本語がそんなに好きなのでしょうか。日本語は私にとって恋人のようです。最初に日本語を聞いた時に（5歳）「一目惚れ」のようでした。聞いて、すぐ「あの言葉が分かりたい、話したい」と思いました。そのため、日本のことと日本語に興味を持ち始めました。

私は美術が好きで、日本語はそんな美術を表す言葉だと思います。日本語は歌のように感じます。日本語の表記法はとてもきれいで、心をうばうようです。そして、日本語で自分の気持ちがもっと簡単に伝えると思います。その「音楽」と「絵」と「詩」を集まって、とてもすてきです。

次に日本人とすごした時間、その人との関係、教えてもらったこと、いろいろな経験を集めました。その経験は今の私を作り上げたのです。もちろん開花と言う事は限らないことなのですから今の私はいい咲き方を探しています。それは私の夢になりました。そして、日本の文化の中で、その開花ができるための事がたくさんあると思います。

「いい咲き方」というのは人によって違うと思いますが、私にとってはどんな咲き方はいいか説明します。

私は「命」と「死」という言葉は若いころに区別する事ができました。父は、私が3歳の時に、事故でなくなりましたからです。多分そのおかげで命の短さが分かって、人生の目標をずっと考えっていました。

私はカトリック教徒じゃありません。神様に信じていませんけれど、自分の信念を持っています。私は「輪廻」に信じています。死んだ後、魂はなくなるわけないと考えています。なくなったら、命という言葉の意味はなくなりますから。魂はどこに行くか分からないけど（楽園か他の次元か）、絶対またこの世界に戻ると信じています。じゃあ、「輪廻」が本当にあったら、命の本当の意味は何でしょうか？私は自分の魂を上手くなるためになんでも生き返ると思います。だから「いい咲き方」をさがしています。

私の信念はまだまだ詳しくないです。まだ若いですから。しかし、今の信じること共に歩いていきたいんです。

私の経験はその信念を作り上げます。大阪にいた時に、死体防腐処理業の人にお会いました。その人といろいろな話をして、つぼみのようにだった信念が咲き始めました。

× 対話レポート

φ 対話の相手

対話の相手は私の従兄弟です。私のテキストはとても私的ですから、ちょっと恥ずかしいです。だれでも話したい事じゃないから、自分に近い人とやりました。従兄弟は私の弟のようですから、恥ずかしいことなんてありません。従兄弟が日本のアニメやゲームなどが大好きで、私の世界に近いと思います。だから、私の作文を読んでもらって、話をして、これは私の対話レポートになります。

φ 信念

⇨ 従兄弟：ステファニーの信念の事もっと詳しく知りたいの。「いい人」になったら、何があるの？

⇨ 私：神様に信じていないと言いましたけど、実はそんな事ないですよ。フランス語で、神様は「DIEU」と言います。そして、私にとって、その言葉に嫌なイメージについています。子供の時に「DIEU」は怖くて、判事で、上から人を見ている、力を持っている人だと想像していました。とても嫌な人だと思っていましたから、今もその言葉は好きじゃないです。私は信仰が哲学だと思っています。そして、一つ信仰は正しいだと思いません。世界の信仰はいろんな共同な事があります。世界の信仰の中からいろんな事を選んで、自分の信念を作りたいのです。でもやっぱりカトリック教に影響された事は当たり前な事だと思います。

「DIEU」は自分のイメージから人間を造りました。その人は「完璧な人」でしたけど、罪をおかしたから、エデンの園から放逐されました。人間の目標はそのエデンの園に戻る事だと思います。「DIEU」の権化の（か、「DIEU」の息子の）イエスクリストは人間にその道を示しました。エデンの園に帰るために、イエスのようにならなければなりません。だから、「いい人」にならないと楽園に帰られないのです。それは目標ですけど、それをできるまでに、たくさんの「命」が必要だと思いますから生き返ることがあると思います。

でも、やっぱり私の信念はまだまだ完璧じゃないですね！生き返ったら魂はその間にどこに行くのでしょうか？すぐに生き返るから、待つか、それはまだ分かりませんね！でも信仰はとても興味深いですから、もっと知りたい、もっと本を読んでみたい、もっと話したいのです。

⇒ **従兄弟**：死体防腐処理業の人にお会って、どんな話をしましたか？ステファニーの前の信念と後の信念、どういう風に変わりましたか？

⇒ **私**：私は信仰がいつも嫌でした。強情でした。信仰は悪いこと、人に争うしかできない、バカと弱い人のためにあるだと思っていました。いろんな疑問がありましたが、答えが見つかる事ができなくてその事を考え辞めました。でも、その人に出会って、私の信念を再び問題にされました。その人は私の思っている事を聞いて、真面目に18歳の女の子を聞いていました。その話の内容思い出せませんが、私の心に強いインパクトされました。再び自分の人生の事と信念の事を問題にしました。今の私はもっと開放的になりました。いろんな人の話を聞いて、なぜそれを思っている理由を分かるようになりました。私の信念はその時からもっと詳しくなりましたから、その人ともう一度話しをしてみたのです。

④ 生命線の価値

⇒ **従兄弟**：何で「さくら」の性格を分かるように日本に行かなければならぬ事だと思ったのか？

⇒ **私**：日本生活を表す漫画やアニメなどは実際にはそんなじやないと聞いたから、日本人の本当の生活を見たかったのです。そして、「さくら」って言う人に会いたかったのです。「さくら」は日本人ですから、日本人に会うのなら、「さくら」も会う事になると思っていました。実際にそうじやなかつたけど、たくさんの人にお会って、「さくら」の性格の部分は人によって見つかる事ができました。

⇒ **従兄弟**：その経験の中で、「謙遜」という言葉が表すね。その経験を話すために、隠喩とか使うことはどうですか？

⇒ **私**：自然の周期はどうでしょう？一つの自然の周期の例：太陽はつぼみが咲くための光をくれる。つぼみは光と水と大きい木になる。その木は酸素を作る。その酸素のお陰で、生き物は生きられる。その周期は念がなくて当然な事です。
人間も自然の一部ですから、そんなふうにも生けるべきじやないかなあ。しかし、人間の欠陥は「念がありま何かをすること」、いつも自分のために。その周期は人間の性格から消えてくるんですけど、日本人の性格にまだ少しが残っていると思います。まず、日本文化に「自然」は大切な事と気がつきました。

そして、弓道の経験によって、試合の時の「謙遜」を学びました。また、迷っていた時の経験は助けた人が、私たちから何かをもらうと思わずに、行き先まで連れてってくれました。そして、電車の中で、年寄りに自分の席をあげるのも誠心誠意するように感じました。ベルギーかフランスだったら、「私はいいことをしました、自分の誇りが高いなー」とか思うようになるはずです。でも日本人だったら、そんな気持ちにならないのです。
多分それも人それぞれに変わるのでね。「魚心あれば水心」と言いますね。ヨーロッパで、人はその「お返し」を確かめたいのですから、知り合いだけを助けるのです。しかし、

日本では、だれでも助けるように感じました。当然にしているから、いつか自分は困っている時があれば、だれかがつけてくれると思うのです。みんなは平等です。

その「謙遜」はとても大事だと思います。私の想いはとても理想的なかもしれません、そういうふうに感じました。

⇨ 徒兄弟：ステファニーは3年間弓道をやっていたね。弓道の話をしていた時に、いつも「我慢」は必要な事だと感じました。煩わしい座り方とか、引く時に気持ちを抑えるとか。

⇨ 私：そうですね。正座で先生の話を45分ぐらいに聞くとか、すごく大変でしたけど、我慢しないといけないね。多分、その「我慢」は「自分に対しての戦い」のようです。でも、その「我慢」は他の場合もあります。他の人は嫌な事をしましたか、されましたか、何も言わず我慢します。ヨーロッパでは、嫌な事が会ったら、すぐ言いますから、最初に私にはすごく難しい考え方でした。でも、その視点分かって、そんなに悪くないと思いました。ただ、我慢のバランスが大事だと思います。状況が好転するように、我慢したか、しない方が決める事です。一回、私はホストファミリーに嫌な事をして、教えてくれなかったから、最後まで悪いことをした事が分かりませんでした。知っていたら、すぐ私の態度を変わっていたのにね。しかし、ヨーロッパでは、嫌な事が起きたら、すぐに言って、問題しかならない時もあります。私は日本人の「我慢」尊敬します。

⇨ 徒兄弟：先輩と後輩の関係はどうですか？ベルギーではそんな関係がないから、知りたいね。

⇨ 私：それは、年上の尊重ですわ。年上の人には私たちより経験が多くて、成熟高くて、知識を持ちます。結果的にレベルが違うから尊重しないといけないのです。先輩も後輩を尊重していますが、次元に違う尊重ですね。もっと、兄弟のような関係でしょうか。日本文化の中で「尊重」も大事だと思います。

その「尊重」は社会的でもある、人と物の関係の中でもある、人と自然の関係の中でもあります。

社会的には、先の例が入っていますね。家族の中でも、子供は親と祖父母を尊重しています。知らない人にも尊重がありますね。人をぶつかったらすぐに謝るのでしょうね。人と物の関係の中では、物というと建物の事とか、買ったものとか、のことなのです。街路はいつも清潔で、建物に落書きがなくて、泥縄あまりいなくて、自分の物にも大事にしています。自然の事にも尊重しています。花見の時にも、「いただきます」を言う時にも、京都議定書のことでも。

その「尊重」はヨーロッパではなくになっていると思います。人の関係と物との関係。自然との関係まだ尊重していると思いますが、日本とのちょっと違いますね。

⇨ 徒兄弟：また弓道の事聞いてもいいですか？ステファニーは弓道部をやっていた時（留学の時）、「ありがとうございます」ばかり言っていた気がします。「ありがとう」はそんなに言うべきですか？

⇨ 私：そうだね。「ありがとう」はとても大事ですからね。みんなは助け合っているから！そして、やっぱ「よろしくお願ひします」も大事です。練習を始まる前にいつも祭壇に向いて、感謝を込めて、礼をして、「よろしくお願ひします」を言います。みんなはいてくれて、ありがとう。先生がいてくれてありがとう。他の人がいてくれたから、自分が上手くなれる、自分を試すことができます。試合の時にも一緒です。

一回試合の間に私たちの学校は勝っていて後輩とすごく盛り上がっていました。大声で「よっしゃー」と言って、嬉しく大笑いして、すごく楽しかったです。しかし、試合の後で、先

輩からめちゃ怒られました。弓道でやっている人も見ている人もへりくだった態度は大事だと言わされました。

それは「謙遜」と「我慢」と「尊重」と「感謝」に関すると思います。その価値は外国ではあまり伝わらないと思いますから、最初にその経験のことあまり分かっていなかったのだが、友達が教えてくれて分かりました。武道は一番よく日本文化を表せると思います。

φ 対話後の感想

従兄弟は私より2年若いですから、やっぱり「信念」とか「価値」とか、あまり考えていません。哲学的な話は従兄弟と初めてでした。彼は私を必要として、私の力になりましたがっているらしいです。とても嬉しかったのです。だから、その対話に彼はすごくがんばってくれて質問を聞きました。その質問はすごく面白かったです。私の作文から、前に話したことから、質問を聞きました。私も頑張って答えました。

その対話は、二人にいい経験になったと思います。

私は、私の信念のことと、私価値のことに言葉で表現できました。私の価値は強く持っていましたが、やっぱり他の人に伝うなんてすごく難しかったのです。しかし、言葉にして私の価値のこともっと分かって、次に何を専念も見つかることができました。やはり、日本文化の事もっと知りたいのです。まだまだ学びたいことがたくさんありますから、次の旅にいろいろな人と話したい、いろいろな所に言ってみたいのです。そして、もう一つ専念があります。その価値は心の中にはありますが、毎日ちゃんと応用しないといけないです。

それはとても必要な事だと思います。そして、従兄弟は私の事もっと分かって、自分の価値の事も考え始めたらしいです。

また、そんな対話のように話せるかどうか分かりませんが、二人は一步前に進みました気がします。

十 結論

私のテーマは「乙女心の咲き方」。「乙女心」は少女の純情で感じやすい心なのです。私は、少女であって、強く気持ちを持つともらうから、私の心にピッタリな名前だと思いました。私の心は「海」のように広くて深い心だとも言われました。

「咲き方」というと、私はどういうふうに成熟していることです。そして、その成熟のために、どんな信念と価値を持っていることです。

人々によって、「心」と「咲き方」は違うと思いますが、みんなは価値ぐらいを持っているはずです。ここで、私の心を表現して、私には大切な事を書き写しました。

私の夢は二つあると言いました。その夢に名前を付けて、初めの夢は「自分を見つかる」で、二番目の夢は「自分になる」と言えるのでしょうか。私は「さくら」になりたくて、日本へ留学しました。そこで、「私」という自身を見つかることができました。それで、今は、その「私」を作り上げます。また隠喩を使いたいのですが、まずは私の一番好きな花は何でしょうか？やはり、桜です。日本文化の価値は私の「咲き方」に入ろうとしているから、その精神を一番表せる花は「桜」だと思います。私の夢の事に戻って、日本で桜木のつぼみを見つけて、今は咲かせようとしています。私の心は桜になるように！

なぜ人は信念を持つのかと聞いたら、「人間」と呼ばれるようになった時から、人は信念と信仰を持ちました。それは、「命」と「死」の答えを見つけるためではないでしょうか。信念というものは、まず「人生の目的」を見つけて、その目的のために何でも

やれるような気になりませんか？そしてやっぱり自分が考えた価値を強く持つのではないでしょか？私の信念はカトリック教と仏教に影響されました。私の「目的」は「いい人」になって、「光」に（「エデンの園」というでも）に入るようになりたいのです。そのため、私の価値を持って、進みたいのです。

最近の世界では、「価値」というのは、だんだんなくなっていると感じますが、日本文化にまだ残されていると思います。なぜ日本文化にまだあるのか、私の通信員にとって、日本ではまだ日本人ぐらいしかいないからなのです。彼の言った事は私も思います。日本人しかいないから、文化は渡せると思います。ヨーロッパの異文化は悪くないと思いますが、やはり価値を渡すのは難しいことになったと思います。日本文化の「謙遜」と「我慢」と「尊重」と「感謝」と「素直」と「粹」はとても好きです。その価値はいい生命線ができると思います。対話レポートで「素直」と「粹」の事を話していなかったのですが、「素直」という言葉はいろんな意味がありますね。ただ、従順の意味じゃなくて、「率直」と「自然」と「飾り気」の意味もあります。日本に来たばかりの時にこの言葉を習いました。他の大事な言葉につなげていると思います。そして「粹」は気質と態度と身なりなどがさっぱりとあかぬけしているものです。でもやっぱり、内面の方が大事だと思います。

通信員にとって、日本人の若者は外国人のようになりたいらしいと言いました。そして、保守的な考え方は流行後れらしいです。流行後の考え方見えるかもしれません、この危機感時代からこそ、もっと大事にしないといけないと思います。説教家として話したくないけれど、そのプロジェクトに自分の「咲き方」を表現して、読者に自分の「咲き方」の熟考を促したかったのです。

＝終わりに

この「考えるための日本語」というプロジェクトに参加してとても興味深い経験になりました。

前に私と日本との関係の事をあまり考えた事なかったのです。なぜか、私にとって当然な関係のようでしたからなのです。5歳の時からずっと日本に向いていたから日本と日本語は家族のようになりました。なぜお母さんは私のお母さんですか、と同じ質問になれたようでした。でも、やっぱり私と日本との関係は別だったと分かりました。そのプロジェクトにその関係の事を言葉で説明するのは私に初めてでした。私の気持ちがちゃんと伝えたのでしょうか？

そして、そのプロジェクトはそれぞれに自分の歴史を表現しています。自分の過去、現在と将来の事の熟考を促しました。私には、そんなに自分の事を考えるのが初めてでした。子供の時から、今まで、どんな人になったのか。そして、この先にどんな人になりたいのか。どんな経験、どんな価値、どんな生き方を持つのか、とても面白かったです。自分の事も知りました。そして、私の夢はもっと詳しくなりましたし、この先何に集中したいのも分かりました。

そのプロジェクトをしながら、対話の相手のことももっと知りましたし、このグループの他のメンバーを出会って彼らの事も知りましたし、早稲田大学のメンバーも出会っていました。いろいろな面白い話をして、手伝ってもらって、それぞれはいい経験ばかりなりました。このプロジェクトを立ち上げた人たちに、本当に、感謝を言いたいのです。本当に、今まで、ありがとうございました。

『私と日本の文学』

「日本と私」



ドゥヴォー・ウィルフリード

一 動機

一年半前に、夏休み中、日本の文化に興味があったから独学で日本語を勉強することを決めました。習うことが興味深い言語だから、勉強し続けました。勉強して日本の文学を読んでみて、日本語で日本の本を読めるようになりたくなったほどすぐに気に入りました。日本の小説家を読んで（例えば夏目漱石、芥川龍之介、村上春樹、太宰治、森王代などです）読むほど好きになっていました。今は日本語の文学を勉強したいから日本学科になりました。なぜ西洋の芸術より日本の芸術が好きなのかという質問に答えてみたのです。

文学と言うと、日本は俳句という、とても短い詩があります。その詩はある瞬間とその間に感じる気持ち、感情を表現するための詩です。俳句の役目は、その形式に沢山制限があるにもかかわらず、とても短い形で最高の心持を伝えることです。俳句は、最小限の言葉で最大限の情景描写をします。それこそは芸術だと私は思っています。実は私は、俳句をよく読む訳ではありませんが、俳句は日本の文学の他にも影響したのではないかと思います。

フランスの古典文学的小説は、景色とか、風景とかがよく形容されています。とても長い部分は登場人物が行動する場面を綺麗に形容する役目しかないので、書き方や形容のし方、言葉のつづり方が美しくて上手いのですが、時々少し味気なくなってしまうのです。フランスの文学にも心持とかがありますが、つづり方がその伝える気分よりも大切になってしまっている気がします。しかし日本の小説は、それより通じる心持を大切にする気がします。たとえつづり方が綺麗でも、形容が美しくても、それに余計に時間を費やして退屈になってしまふ訳ではありません。ある意味、日本の小説はフランスの小説より現実に似て生活を写し出していると思います。

これからマルセル・プルーストというフランス人の偉い作家と芥川龍之介という日本人の偉い作家を比べたら良くないかと思います。なぜその二人の作家こそを選んだかというと、両方は私が感心している作家のため、主観が入らない話が出来るからです。プルーストは文と形容がとても長い小説家として有名です。芥川は特に簡潔な短編小説を書いた作家として有名です。両方が天才と言われていますが、スタイルがとても異なります。芥川は一生を語るために、俳句のごとく短い章を持つ短編小説を書きました。プルーストは同じ目的を持って、七巻からなる小説を一点一画書きました。だからこの二人の文人のレベルを比べることが無理だと私は思います。しかし、人生は儂い瞬間で構成されているのではないかと思っています。生きるというのは、住んでいる町や散歩する場所とかを形容することではなくて、喜怒哀楽を感じることだけではないかと思っています。そうなら、芥川はプルーストより生活をちゃんと描写出来たといえます。簡潔だから飽きる時間がありませんし。

簡単な例ですが、もし私の気持ちをよく伝えられたら嬉しいです。私の意見は、日本の芸術は西洋の芸術より飾り付けずに正真正銘なんです。フランスの芸術と文学とかを批判するのではないんですけど。ただ、日本の芸術と西洋の芸術は理想が違うみたいです。そういう違いに興味が沢山あって、日本語を勉強して楽しんでいます。

× 対話レポート

私は一年生だけで、このプロジェクトに参加する一年生はとても少ないだから、参加する知り合いとかがありませんでした。だから、一緒に対話した人々は全部知らなかった日本人のメンターでした。その人は時間をかけて私の作文を読んでコメントして本当にありが

とうございます。

⇒ 山内さんは私が他の参加者ほど私がどうして日本語を勉強したかについてあんまり話さなかったことを指摘しました。だから「初めて日本の芸術に興味が出たのはアニメのおかげでした。フランスのアニメは全部子供向けなので、それより年上の人向けの日本のアニメをはじめて見た時はすぐに興味になりました。そして、フランス語の字幕がつけられたバージョンを見ていたから、日本語を聞く機会がありました。綺麗な言語だと思ったから、独学でウェブで勉強してみました。それで、日本の言語を勉強して日本の文化に近づきました。日本の文学も読んでみたので、好きになりました。だから作文は動機と結果を或る意味少し逆にしてしまったのかもしれません。日本の文学が好きだから日本語を勉強しはじめたのではなくて、日本語を勉強していたから日本の文学に興味になったのです。でもやっぱり日本語を勉強しはじめたのは日本の文化と日本の芸術に興味があったからでした。」と説明しました。

そして山内さんは「今も日本語の勉強を続けていて、これからも何か（新しいこと）を広げていきたいですか？それとも、文学や芸術を深めていきたいですか？」と聞いて「文学と芸術をもっと深めていきたいです。でも日本語は外国語としても好きなんです。」と答えました。

⇒ 張さんはどうして私は芥川龍之介が好きなのかに興味が出ました。しかし、好みとかは説明しにくいです。そして張さんは「以前、私が、佐藤春夫（さとう・はるお）の詩集から、「よきひとよ、はかなからずや」から始まる「よきひとよ」という詩に出会ったとき、「あ、この、もやもやとした感じは僕さなんだ」と、すごく納得したことがあります。自分でも表せない自分の心を詩にしてくれた感じがして、それから、佐藤春夫の詩がとても好きになったのです。」と言って「ウィルフリードさんは、芥川龍之介のどういう描写が、なぜいいと思いましたか」と聞きましたけど、或る作家の作品が好きというの、その作家が自分が表せない事を表現する条件がないと思います。芥川さんは英明な事をいろいろ目指しました。たとえば、人間の残酷さです。でもそれより、「或る阿呆の一生」という作品で自分の人生をいろいろ感じた気持ちで表現するのは英明なアイデアだったと私は思います。

⇒ 佐藤さんは俳句について私と同じ意見で「私も、あんなに短いのに、すごく深い描写ができる俳句の形式というのは素晴らしいと思っています」と言いました。そして質問を二つしました。私がそうした「潔さ」に興味を持ったのかもしれませんでしたが「それはどうですか」と聞きました。私は装飾することより直接のほうが好きだから、凝縮ができるのはなんとか上手さの証拠だと思うからと答えました。そしてなぜ文学で比較することに興味があるのと聞きました。私は文学が大好きで日本の文学を学びたいからと答えました。

⇒ 姫さんはフランス文学と日本文学の間の違いは確かに作家と時代によることが大きいだと批評しました。プルーストさんと芥川さんが巨匠なのため、私はフランスの文学はこうで、日本の文学はああだ、というふうに見なされることが多くあると思っていたから、私は謝って私の思うことや目的ではないと説明しました。でも、確かにレポートは説明を十分しなくて概括していました。

そして文学・作家のスタイルの解釈、芸術を通して、なぜ「人生観」をつなげて考えたいのかと聞きました。芸術は言葉でうまく表現できないことを表現しますから、芸術を通して他の人の人生観が分かれると、作家の思うことを考查して自分の人生観と違う意見が分かれると私は思うからなのです。

対話活動のおかげで、作文は十分説明しないで、概括を少しほして、私と日本との出会いのことを十分話さなかつたことを理解しました。それよりもっと例した方がいいなのかもしれません。大学の勉強を続けて日本文学をもっと勉強しようと思っています。

十 結論

ここまでどうして他の外国語じゃなくて勉強するのは日本語なのかと思っていなかつたから、このプロジェクトは私に自分のことについて考える機会をあげました。今、フランス語と本当に違う日本語は習うのが興味深くてなんとか少し別な考え方をあげる言語だからと言えます。ですけど、私にとって日本はなんとか芸術の理想だとも言えます。

将来の夢は小説家に成ることです。読書と文章とかを書くことが大好きで、いつかそれは私の仕事になれると極嬉しいです。私が一番好きな作家は全て日本人で、彼らの作品に近づいてもっとよく理解するために、いつか彼らの本を日本語で読めるように成りたいと思います。それを通じて自分の書き方を上達させることが出来るのかもしれませんし。でも芸術は個性的なものだから、絶対真似して書きたくないです。

日本語を勉強することは私の生活の大部になってしましました。だから今から、文章とかを書き続けて、日本語の勉強も続けて、原稿がいつか出版されるように頑張ろうと思っています。

=終わりに

このプロジェクトに参加することが楽しくて良い経験になりました。自分について考える機会にもなったので、興味深かったです。でもやっぱり難しかったです。

日本人のメンターとの会いの日もいい経験になりました。初めて午後中日本語で話して、議論しました。難しくて理解しないことが多かったです。でもやっぱり楽しかったです。日本人のメンターとグループの皆さんには良い雰囲気を持っていたので、嬉しく思いました。

来年は二年生になって、今より日本語がもっと上手になるはずなので、確かにこのプロジェクトにまた参加しようと思っています。

～あとがき～

「考えるための日本語」のプロジェクトに参加して、みんなは嬉しく思いました。すごく良い経験になりました。

そのプロジェクトのテーマを聞いた時にみんなに近いテーマだと思いました。自分の人生に関するテーマでしたからです。みんなはなぜ日本の興味を持ったのか、日本語を勉強し始めた理由のことか、自分のなりたいことか、そんなテーマだったから、そのプロジェクトに参加しようとみんな思いました。

そのプロジェクトは私たちの「将来」をちょっと作り上げたと思います。ちゃんとと思っていることを言葉に伝える事ができましたから、前に進めそうです。自分にもっと自信を持つようになって、日本語能力も上手くなりました。でも、やっぱり最初に、自分の日本語能力を考えるとちょっと不安になりましたが、頑張ろう気持ちもありました。

みんなはやっぱり、日本のアニメや漫画や文学などから始めましたが、それが違う道を選びました。「オーディオビジュアル」、「小説」、「咲き方」、「人との関係」です。でもみんなはその私的のテーマも興味を持っています。やっぱり私の共通テーマは「自分の生き方」です。過去と現在と将来を対比するとその「生き方」を見つかることができました。

そして、そのプロジェクトを参加して、新しい人に出会えることができました。自分の大学の中の人も早稲田大学のメンバーも会えて、とてもいいと思います。考え方も違って、経験も違って、それぞれが影響をされて、させて、自分の考えも深く考えるようになりました。

見返しのイメージに俳句があります。「蝶とぶや小草見ても一人口」。その俳句は私たちの共通テーマにすごく関していると思います。なぜか、人間は蝶のようにこの世の中、小さい存在ですけど、いつも止まらずに私たちの将来に飛んで行くのです。そのプロジェクトを思い出せ、調のように前に進めるようになったと思います。

ステファニー・デュフォー

～感謝～

「糸国際夢想家」のグループのメントルの来栖さんと姫さんに厚くお礼申し上げます。御助言と我慢のおかげで、自分の考えをもっと深く考えることができました。何よりもまず私たちに対して御厚意に感謝します。お世話になりました。

そして、私の相手の優子姉さんの時間と支援に対して謝意を述べます。

ギルボ・オーロラ



「糸国際夢想家」のグループのメンバーとして、私は皆さんに感謝をしたいでございます。特に、山内先生、チャンさん、来栖さん、姫さんは、誠に有難うございます。皆さんからくれた理解と忍耐と助けのおかげで、やっと私のレポートを書くことができました。相手、友達のイーリズさんにも謝意しています。

デュバー・エマニュエル



早稲田大学のメンバー、来栖さんと姫さんと他のメンバーたちにお礼を申し上げたいと思います。自分の文章に質問を聞いて、もっと深くなるように手伝っていただいて、とても嬉しく思います。本当にその一ヶ月間、お世話になりました。

デュフォー・ステファニー



早稲田大学はそんな興味深いプロジェクトを組織して感謝したいと思います。メンターの姫さんと来栖さんを特に感謝したいと思います。その二人と一緒に働くことは楽しかったで、お手伝いは本当に役に立ちました。ここまでありがとうございます。

ドゥヴォー・ウィルフリード



「糸国際夢想家」グループ、リール第3大学の4人は「考えるための日本語」のプロジェクトの実現に協力させていただいて、とてもうれしいことです。細川先生をはじめ、パートナーシップを作り上げていただいた早稲田大学日本語教育研究の皆様に感謝いたします。

「糸国際夢想家」グループ

早稲田プロジェクト

2012年

「絆国際夢想家」

リール第三大学シャール・ドゥ・ゴールの：

- ギルボ・オーロラ
- デュフォー・ステファニー

- デュバー・エマニュエル
- ドゥヴォー・ウィルフリード

早稲田大学大学院日本語教育研究科の：

メンター：

研究科長：

鄭京姫 & 来栖暢子

細川秀雄 教授

